

大正町の文化財



(環状石斧 中打井川九郎権前社宝)

大正町教育委員会

H5.10.20 刊行

発刊にあたって

昨年は木屋ヶ内遺跡の発掘によって、縄文時代の遺物が多数出土し 先人の生活の足跡が明らかにされました。

中世の源平時代、近世では上山郷時代のものを中心に町史跡の指定地、町民各位から寄贈された資料の数々を紹介する手頃な案内書を、文化財保護審議会に執筆を依頼し この度完成をみました。

二十一世紀を間近に迎え激動の今日 歴史の現実をしのび先人の文化遺産に接するこ

とで、現代社会に生きる私たちには何かを感じるものだと思います。

本書が文化財に親しみを覚える一助になれば幸いです。

製作にあたってお世話を戴いた西村丈二、森 敏雄、田辺 猛の各委員さんに厚くお礼申し上げます。

平成五年十月二十日

大正町教育長

武内敏博

大正町の文化財

目次 頁

国指定重要文化財

縄文時代遺跡

史跡

① 竹内家

木屋ヶ内遺跡

上山郷上分番頭大庄屋墓地

② 宝篋印塔

③ 北ノ川城跡

④ 秦道文の墓

⑤ 旧下津井村閑番所跡

⑥ 化石（二枚貝）出土地

⑦ 八足堰の溝台

⑧ 猪囲いと黒作畑

⑨ スリツケンサイド

⑩ 熊野大杉

⑪ 椎の大木

天然記念物

考古資料

絵画

有形民俗文化財

亀甲竹

ラジオラリア

絵馬流しかたの図

茶堂

環状石斧

古い幟

念佛鉢

諸刃造り小刀

鰐口

木造獅子

千羽鳥の神璽

法華経石

木造阿弥陀如来立像

木造阿弥陀如来座像

彫刻

工芸品

②7

②6

②5

②4

②3

②2

②1

②0

①9

①8

①7

①6

①5

①4

①3

木造阿弥陀如来座像

木造地蔵菩薩立像

木造阿弥陀如來立像

法華經石

千羽鳥の神璽

木造獅子

諸刃造り小刀

鰐口

念佛鉢

古い幟

環状石斧

茶堂

環状石斧

念佛鉢

諸刃造り小刀

鰐口

古い幟

環状石斧

無形民俗文化財

②⁸ 木造藥師如來座像

②⁹ 木造增長天立像

③⁰ 盆踊り

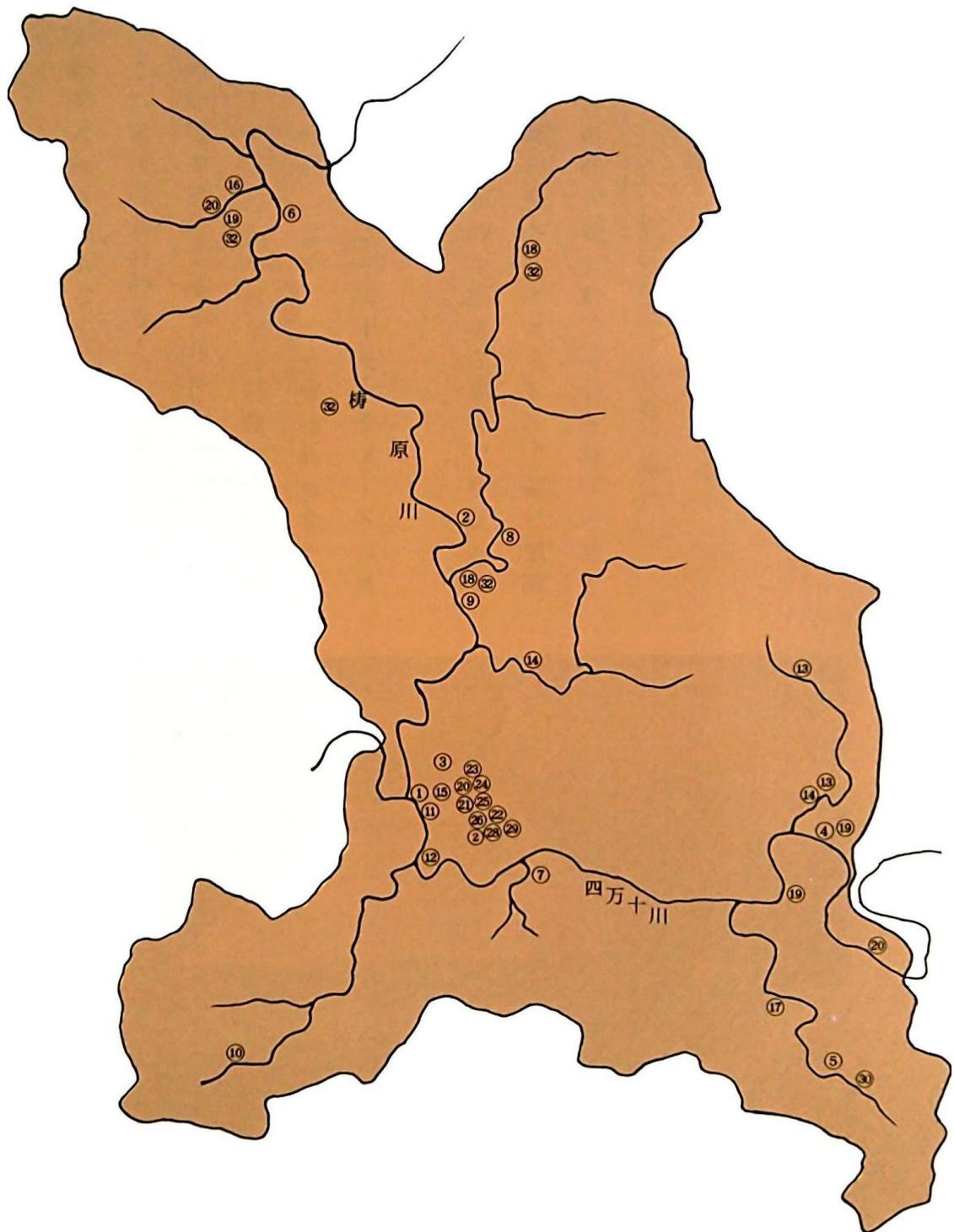
③¹ 当屋祭

③² 施餓鬼念佛

③³ 重要遺跡一覽表

編集後記

文化財位置図



重要文化財竹内家

重要指定 昭和四十七年五月

所在地 田野々一三一一番地

旧所在地 中津川 一番地

年代 約二七〇一二五〇年前

江戸時代中期（約二七〇年前）に建てられた桁の長さ約十メートル、梁と梁間約六メートルの小規模な茅葺、茅壁の家です。

材料としては 二十センチメートル角の桑の柱や「なかじ」と呼ばれる長さ約十メートルの松の桁など特種な材料と特の軸組工法等で建てられています。

この家には天井がなく、押し込みといつて物を入れる棚もなく、竹でしいた床が



あるなど当時（江戸中期）の土佐地方山間部特有の構造で建てられていまして、他に見られない貴重な建物で県内で現在重文に指定されている民家は左記の二軒とともに三軒だけというめずらしい建物です。

山中家（本川村） 関川家（高知一宮）

注

桁けた……建物で棟むねの方向に柱しらの上にのせてタルキその他をうける材。

梁はり……建物で棟むねの方向に直角に柱しらの上にのせて固定する。

木屋ヶ内遺跡

所在地 木屋ヶ内

面積 約一〇〇メートル×

六〇メートル

時代 約八〇〇〇年前～中世

発掘 平成四年（一九九二）

平成四年の秋 県文化財の指導を受け
て発掘調査をしたところ約八〇〇〇年前
から弥生時代にかけての長さ二十四セン
チメートルの磨製石斧や矢ジリ、石包丁
等の石器、茶わんなどの土器片がたくさん
発掘され、またこれ等をつくった時の
原料として使った石や多数の石の剥片が
一〇〇〇個以上も出土しました。そのほ
かに中世の住居跡やその頃の中国から輸



入したと思われる青磁という磁器の破片や「永楽通宝」（古錢）等も発掘されています。

矢ジリやその他の石器と共に多くの原料となる石やその剥片が出土したのはその頃此処でこれらの石器を作っていた事が想像され、縄文時代から中世にかけて沢山の人が生活していたと思われる貴重な遺跡です。

注 剥片 石を打ちかいた片



上山郷上分番頭大庄屋墓地

宝篋印塔

ぼうきょういんとう

所在地

田野々字五松寺中

田野々市街地の北方、町営住宅のうら
にあります。

明治十九年、同二十三年の風水害で一
時荒れはてていましたが、庄屋の墓地と
して現在も残っています。

中屋家、東家、津野家などの徳川時代
中期（一六七三—一七五年）の墓石十
数基があり、そのほとんどが年号などはつ
きりした屋根付の立派なものです。

尚 ここにある宝篋印塔は室町時代に
建てられたものと想像され 一部欠けて
いますが その大きさ 石の質 形状な



どちら見るとその主はかなりの力をもつた豪族か、大きな城の城主であつたと思われ、県下では珍らしい程立派なものとのことです。（史談会　岡村）

平成四年七月　墓地の南側で発掘調査が行われましたが、約二メートルの地下から宝篋印塔の塔身一体が掘り出されその一面に

「淨仙 應安八年（一三七五年）十二月

八日 敬白 光明真言（梵字）」

が刻まれていました。

（注）宝篋印塔……墓の一種で、大きな勢力を持つた人が作りました。供養塔、墓碑

梵字……古代インドの文字（サンスクリット）につかわれた文字

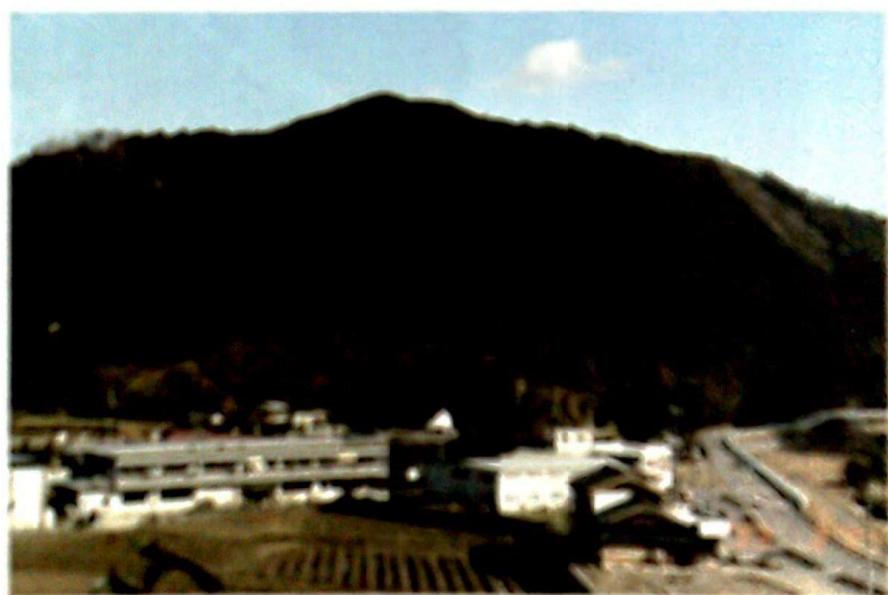


北ノ川城跡

所在地 北ノ川字城ノ坂

北ノ川中央部の坂々になつた丘の上に
あつて、丘の高さは約一セイメートル
四十万川や北ノ川が一望のもとにな
らけています。

この城はもと田野ヶ城又山城の二重
目の城として築かれたもので、其壁十六
の櫓出羽守兼門重正が、田野ヶ城より移り
住んだと伝えられています。兼門守や曾
山景によると豊臣時代または上戸初頭に
城がおちたと書いてありますので、一四〇〇
年代初期より一六〇〇年代初期まで
約二〇〇年間おつたものとおもわれ、当
時の地方豪族の城としては最も堅い城



とされて います。

最後の城主重良は城が落ちた後浪人となりその後十川・大井川・北ノ川・江師などの庄屋をしていたとのことです。死後その墓は江師の極楽寺にあつたとのことです
が、それ以後はあまりよく分かっていません。

城の址には二ノ段三ノ段があつてその間は濠となつていて本格的な城の名残をしのばせて います。

(注) 浪人：職のない人。仕える主人のない人。

秦

道文の墓

所在地 奥打井川字小畠山京殿

祭神 秦 道文 武文

道文神社として祭っています。

「元弘の乱」の後、鎌倉幕府の北条高時によつて後醍醐天皇は隱岐に、尊良親王は土佐に流されましたが、その時、秦道文・武文の兄弟が親王のお供として土佐にきました。

土佐では現在の大方町米原の山里に住まわれていましたが、その後、道文は王のお姫様を迎えてこいとの命をうけて京都に上る途中、奥打井川にて病気にかかりなくなりました。道文は王の命をはたすことが出来なかつたことを残念に思い、



死の直前に

：病に苦しむ人は 我が墓に まいると病気は治るであろう：

と言って死んだとのことです。

毎年 旧暦 二月三日の終りには遠く近くからの参拝者さんぱいしゃが多く、門の前には屋台やたいもでて 大変にぎやかです。

下津井村閑番所跡

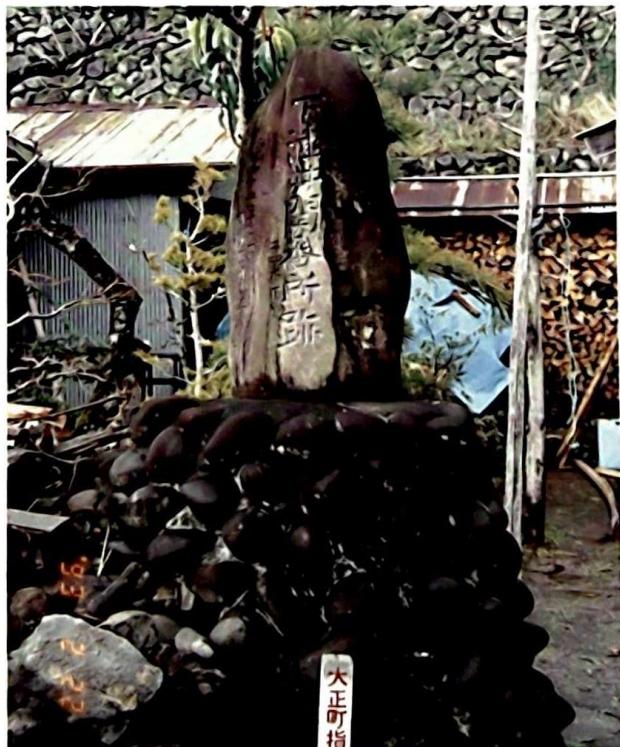
所在地 下津井字竹ノ地

徳川時代には閑所のことを 土佐では
は 番所と呼んでいました。

人どおりの多い陸路の大重要な所、国境に近い番所として「下津井口番所」が設けられていました。農民がよそへ逃げたり、通行人のゆきき、いろいろな品物を送ったり入れたりするのを監督していました。

番人 中屋五右衛門、中屋丹藏、中屋市左衛門の記録があります。

明治三年（一八七〇年）八月一日、
番所制度はやめることになりました。



化石出土地

所在地 四手ノ川字西川津

所有者

昭和四十年代 二枚貝の化石と古代
の土碗が出土した所です。

現在は鉄道工事と道路工事で発見当
時とは姿形が少し変わっています。

この貝の出土したことは数千万年前
ないし数億年前 この地が海底であつ
たのか あるいは海底が隆起したもの
であるのか、鳥手、芳川のラジオラリ
ア化石と共に 地球の古代を知る上で
貴重な資料です。

土碗は古代（約一五〇〇年前）の農民
が祭りの時つかつた土の碗です。



八足堰の溝台

場所 八足

時代 明治時代

昔 八足の田畠に水をひく溝をつくるのに 堤堰^{えんてき}の近くが きりたつた崖^{がけ}であつたので その崖を削^{けず}つて溝を作りました。

そのため 下の図のように 崖そのものが 溝台となつていまして ちょっと変つた溝でよその人々に珍しがられていました。現在は溝を拡張しましたので少し カわっています。

(注) 堤堰^{えんてき}：川の水をせきどめる堤



猪 囲 いと黒 作 畑

所在地

小石字小石峯

時代

江戸時代末期

江師の 小石の

黒作さんは

と謡にうたわれた 黒作さんは 江戸時代末期の地主で 現在の小石茶堂の 約一〇〇メートル上にある小石峯という 山の中腹の ゆるやかな所に 畑をつく り 芋を植えていましたが、猪に荒され てこまりますので 深さ約二メートルの 堀をつくり 石垣や土るいを築いて防い だといわれています。

現在は 栗林になつて堀は大方埋まつ ていますが 昔の面影が少し残つていま す。



スリッケンサイド

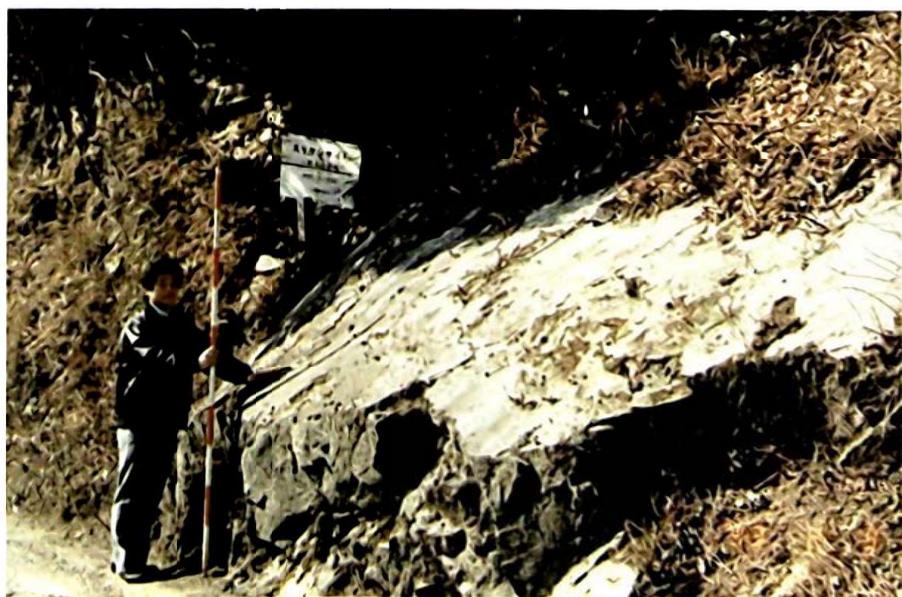
所在地 葛籠川

指定年 昭和四十三年

発見 昭和三十五年

スリッケンサイドは 一名を 鏡肌かがみはだ とも
呼び 地殻ちかく（地球の中にある岩）が変動し
て大きな岩が裂けるとき 断層摩擦だんりょうまつとう によっ
て出来たもので、表面はなめらかで鏡の
様な肌をしており 表面には 搾かき傷きずがあつ
て断層摩擦の方向を示しています。尚なお
断層の際 砂岩が変質して輝ける珪岩けいがん と
なったものです。

成り立ちは周辺の関係から、一億年く
らい前のものと思われ 地質学上の文化
財としては非常に珍しいもので いつま



でも保存せねばならないものです。

沢田俊治さんと 宮脇利徳さんが 地質調査の時発見しました。

(注) 断層摩擦：：岩石に割れ目が出来てずれる時におこる摩擦

くまの
熊野
大杉

所在地 田野々字ウログチノ上

熊野神社地

樹齡、八〇〇年

高さ 約二九米

外周 約六・六米

熊野別当 田辺旦増の子、永旦が土

佐にくる時 熊野權現の神体として三
本の杉苗を大事にもつて来て 上山郷
の領主となつたのち 田野々に熊野權
現を建てるとともに その境内に植え
られたものです。

その後すくすくと成長していました
が 三本のうち二本は徳川時代中期の
一七一〇年の頃社殿修理のため切ら



れました。

現在一本のみが写真の姿で残っています。

明治四十年頃 林学博士本多静六氏の鑑定かんていによれば、樹齢七二〇年位とのことでした
ので 平成五年の現在は 約八〇〇年になります。

(注) 別当……昔、大きな寺で事務の頭であった僧侶

椎の木

たいぼく

所在地

轟崎

どどろざき

樹齢 約三〇〇年

高さ 二十五メートル

外周 十五メートル

江戸末期 昔の国道で田野々一窪川、田
野々一杓子越中村線の三叉路、四万十川、
葛籠川の合流点近くに茶店がありました。
その庭に椎ノ木があつて茶店は「椎ノ木茶
屋」とよばれて旅の人親しまれています。

ある時 茶屋に火事があり、そのため
この樹が半焼しウトが出来て半枯となつた
ものです。

国道の巾をひろげる時、取り除く予定で
したが 愛好家の強い願いで現在の姿のま
ま残されました。



亀
甲
竹

所在地

相去、鳥手

孟宗、ハ竹等の竹藪の中に一見 亀の
甲に似た模様が 根本近くにある竹があり 珍しがられています。相去、鳥手の
二ヶ所にあり鳥手のものは ラジオラリ
ア 硅岩層のすぐ上に沢山見られます。
一般には孟宗よりハ竹の方に多く現わ
れるようです。



ラジオラリア

所在地 芳川・烏手
よしかわ

指定年 昭和四十三年

発見 昭和三十五年（一九六〇）

大正町にあるこのラジオラリア珪岩は一億万年から一億数千年前に海の中にすんでいた放散虫（ラジオラリア）の化石を含んでいる岩石で 地質学者沢田俊治さんが顕微鏡によつて確認したものです。

放散虫は海の中にすんでいた單細胞の微生物（ごく小さな生物）で それが深い海の底に沈んで泥になり化石となつたものですから 大正町のこの周辺は大昔海の底であったのか 又は海の底が隆起したのか……いずれかだとおもわれて

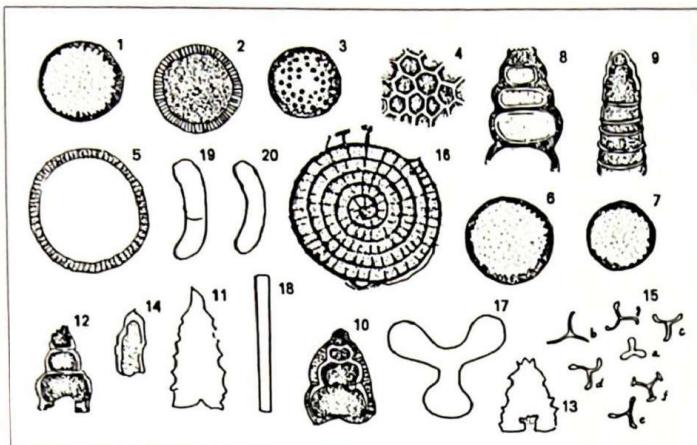


い
ま
す。

(参照) 日本列島の誕生……平 朝彦。

大正地域の地質……沢田俊治)

(注) 硅岩……おもに石英の粒が固まって出来たかたい岩



放散虫顕微鏡図（地学研究第17巻第5号より転写）

絵馬流しかたの図

所在地

熊野神社

時代

明治時代

形状

高さ 四九センチメートル

巾 六〇センチメートル

道路のない昔、材木を運ぶには、もつぱら河川を利用し、筏に組んで流して運んでいましたが、この絵馬は、明治時代に四万十川や橋原川の筏ながしの模様を描いたもので、これらの仕事に關係していた人々の安全を祈願して奉納したものであります。

この絵馬は明治三十年代安芸の人気がおさめたもので、年と共に絵の具がうすくなってきてはおりますが、昔の様子をはつきりとこしています。



’93 2 25

茶堂

所在地

下津井字中山

町内、各集落には 茶堂が二十七ヶ所ほどあり その代表として 町指定の民俗文化財とされています。

四メートルの方形づくりで 屋根は茅ぶき 床は板張りで 高さ五十七センチメートル位、三方をあけ放し正面の奥一方のみを板壁として そこに棚を設けて「石仏」をまつっています。昔は毎年 旧暦の三月二十一日と旧暦七月二十一日が ご縁日で その前後二十一日間 各戸から出て 路や通行人、集落の人々に だんご、あられ餅、きび、豆の煎りばな、などでお茶の接待をしました。

お大師様の「お茶供養」とい 茶堂の

呼び名のもどとなっています。

注 お大師様……弘法大師



環状石斧

所在地

中打井川九郎權前社

形状

やや橢円形

十・八センチメートル×十一・

二センチメートル

厚サ 二・五センチメートル
中央に 直径二センチメートル

の孔あり

中打井川の氏神様 九郎權前社に社宝として
まつられていたものを 昭和三十八年県
が民俗資料の調査をした時 発見されたもの
で、弥生時代（二〇〇〇年前）の石斧と認定
されており 現時点では四国でも数少ない貴
重なものです。

中央の孔に木の柄をさして オノやツチと
して使用したもので、武器としても もちい
られました。



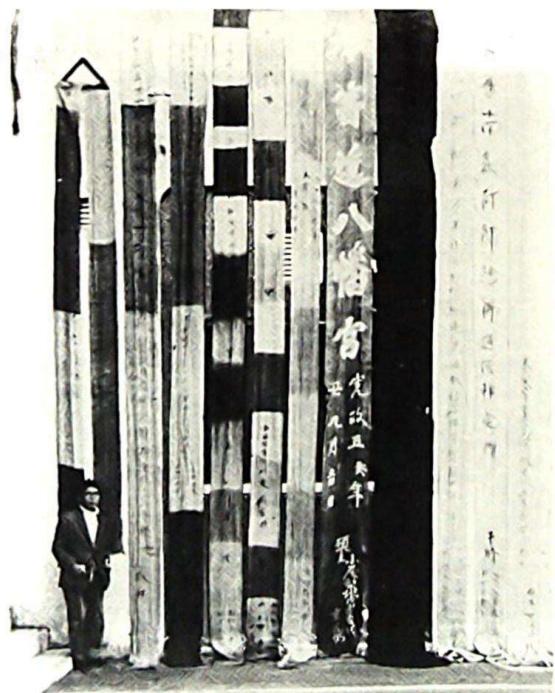
古い幟

のぼり

所在地 中津川、木屋ヶ内、大奈路
施餓鬼念佛の時に使われてきた古い幟
が 中津川に三本、木屋ヶ内の古宿に七
本、大奈路に一本と合計十一本が大切に
保存されています。

木綿以前のカジ、コウゾ、フジ、ハド
などの皮の纖維で織られた太布という
布で作られていますが これらのはものは
長年たつたので今では 草木染めの赤、
青、緑、黄などの色もうすれ変色してい
ます。

中津川の一本には 奉供養 南無阿弥陀
通源禪定門 干時寛政十歳（一七九八
年）と年号が書かれており



古宿のものには 南無阿彌陀如來為菩提 千天明七（一七八七年）丁未歲とあり

一本が五色に染め分けられています。

大奈路のものも染め分けられており 天明の年号があります。

南無多宝如來、南無妙身如來、南無甘露如來、

幟の寸法は 巾三十九センチメートル、長さ八十九メートルの長いものです。

念佛鉢

所在地 下津井、中津川、上宮外

小さな円形、平鉢のような 金属製の

打器具。

撞木 といって木でつくった 丁字形の
「ツチ」のような器具でたたいてならす 仏具の一つで「たたき鉢」とも言います。

お伊勢踊や施餓鬼念佛の時使われました。 直径は十七～二十二センチメートル
くらいです。

上宮のものには享保十四年、下道のものには寛政十年の文字が刻まれています。



鰐
口

所在地

田野々五松寺、北ノ川觀喜寺、

大奈路、古宿、下道茶堂、

下津井西源寺、中津川茶堂、

弘瀬海藏庵

神社、仏堂の拝殿の軒につるし その前に垂らした布を編んでつくつた綱をふり動かして鳴らす金属製の器具。

形はたいらな円形で 写真のように中が空につくられ 下の方は横長の口に開いています。

中津川茶堂のものは、外径二十二センチメートル、厚さ六センチメートル、青銅製

て 表に

奉掛御宝前、施主 火野川村 平右衛門



天和三歳（一六八三年）亥七月吉日の文字があり、中心には十六枚の蓮の花びらの撞^は座^{シテ}があり、周辺には蓮^はの花の美しい模様が刻まれています。

諸刃造の小刀

所在地 熊野神社

形状 三六・二センチメートル 反り

銘 ナシ

熊野神社の社宝です。

熊野の別当田那部 旦増が紀州を離れる時、熊野神社よりいただいて持つて来たもので（年譜記にあり）この剣をもつて旦増が田野々で大蛇を退治したとの伝説があります。

明治の頃盜難にあいましたが 大阪の博覧会にて 蕨岡の松田氏が発見し これを八十円で買い求め熊野神社に奉納したのです。



木造獅子 一対

所在地 熊野神社

形状 高サ 五五センチメートル
長サ 四六センチメートル

昔から この木造の獅子は熊野神社の宝として、回り廊下に飾つてありました。明治二十三年の大洪水の時、現在の国道の下にあつた熊野神社の社殿は、水につかり大半の社宝や備品は流れてなくなり、本殿の回り廊下にあつたこの獅子も、二個のうち一個が流れなくなつていました。不思議にも旦増一行が上陸した熊野浦（佐賀町）に流れつき、その後いろいろの事情があつて熊野神社にかえつて來たものです。熊野浦で拾つた人が熊野神社の宝物の（獅子）と知らずに灯籠の台として使つており一部が焼け焦げています。



千羽鳥の神璽

(群鳥牛王宝印ムレガラス)

ゴオウホウイン)

所在地 熊野神社

形状 長サ 二三・五センチメートル

巾 二〇・〇センチメートル

昔 紀州熊野権現のだす護符や起請文などに押す時に使われた宝印(お宮の印かん)

で、熊野の別当であつた旦増が 熊野から
土佐に来るとき熊野神社にあつた法華経石、
太刀などと共に大事にしてもつて来たと伝えられています。

この宝印は写真で見られるどうり 七十
五羽のカラスをもちいて熊野牛王の文字を
あらわしたもの、といわれています。

また この宝印は現在つかつても 充分
つかえる立派な印です。

(注) 起請文……誓いごとや企だてごと
を書いた文



法華經石

所在地

熊野神社

個数 二十七個

大きさ 四センチメートル～五センチメートル
昔 嵐峨天皇（西暦八〇〇年ころ）が京都
都 加茂川の小石に経文の梵字（写真参照）
を一石に一字ずつ書いて、熊野権現に奉納
したものといわれていて、熊野地方の別當
であつた旦増が、熊野から土佐にくるとき、
大事に持ってきて、ここに熊野神社に奉納
したものと伝えられています。

現在も写真の通り、梵字はハツキリと残っ
ており、大変めずらしいものです。

石の数二十九個ありますが、二個は文字
が分からなくなっています。

(注) 経文……宗教のもどなる文章

梵字……古代インドの文語（サン

クリット）に使われた文字



木造阿彌陀如來立像
もくぞうあみだにょらいりつぞう

木造地蔵菩薩立像
もくぞうじぞうぼさつりつぞう

所在地 田野々 熊野神社境内

長樂寺

この二体の仏像の製作された年代は平安（藤原）時代末期から鎌倉時代の初期（一二〇〇年前後）のものと想像されています。

如来像の高さは八十八・七センチメートル、地蔵菩薩の高さは六十三・五センチメートルで、丸彫り、ともに杉材の一本の木で造ったものです。

二体は芸術的にもすぐれていて、髪をこまかく、整然と刻んだ如来像の頭



の形、ふくらみのある肉付けなど。

やや小首をかしげるかに見えるなにげないポーズの地蔵の姿に
つくった人のすぐれた技術がしのばれます。

昭和四十四年 県保護有形文化財の指定をうけました。

地方でこの仏像を

木造阿弥陀如來座像

所在地 田野々 熊野神社境内

長樂寺

はるか西の彼方にある極樂淨土の仏様で慈悲深くあらゆる人を救おうとされている尊い姿の仏像です。桧の寄せ木造りで、像の高さ六十センチメートル、台座三十八センチメートルあります。

昭和三十年頃 本体を墨色にぬっています。



木造薬師如來座像

所在地

田野々 熊野神社境内

長樂寺

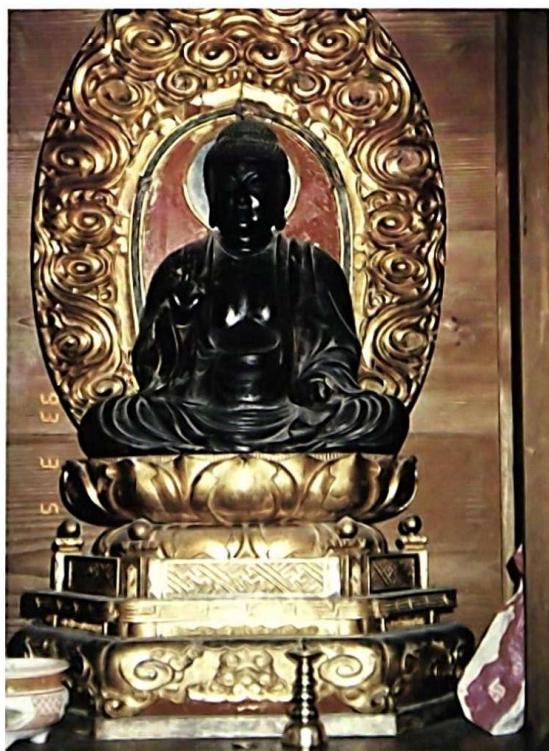
病気などに苦しむ、すべての人々を救うという仏様で、右手に印を結び 左手に薬のつぼを持つ姿の仏像です。

桧の寄せ木造りで、像の高さ四十二センチメートル、台座三十七センチメートルあります。

昭和三十年頃 本体を墨色にぬっています。

(注) 印……手の指を組み合わせて宗教的な表現をす

ること



木造增長天立像

もくぞうぞうちょうてんりつぞう

所在地 田野々 熊野神社境内

長樂寺

仏法^{ぶつぱ}と仏法を信仰する人々を守る
神として 矛^{ほこ}という両方に刃^はのある
武器をもつて いる姿の仏像です。

像の高さ八十五センチメートルで
昔の色がわずかに残っています。



盆踊り

場所 奥打井川

昭和初期までは お盆の季節になると、日本全国 老いた人も若い人も また男も女も、盆踊りにあけくれて、時のたつのを忘れたものです。

昭和も三十年代のころから 若者が都会に出てゆき 過疎となつて 盆踊りの慣習もすたれてしましました。

ここ奥打井川では、なんとかして古来のこの良い習慣を残したいものと 区長はもちろん熱心な人々が「郷土芸能保存会」をつくつて その保存につとめています。

また「太刀踊り」その他もたいせつに保存されて踊られています。



当屋祭とうやさい

所在地 下道しもどり

春日神社かすがじんじゃ

旧曆十一月十二日 春日神社「もうし」

の祭礼行事のあと、部落の人々が接待する組と、お客様の組と分かれ、当屋とうやに集まり、各組の当頭とうがしらの指図に従って、昔からの式順により行われていた、酒もりの行事です。

酒もりの半ばで、お碗に飯を高く盛り上げて、客人にすすめる、「掛け飯かげめし」が珍しく、変わった祭として知られています。

(注) 当屋とうや：組のリーダー

当頭とうがしら：組のリーダー



施餓鬼念佛

所在地 下津井 下津井 西源寺 西源寺 木屋ヶ内 木屋ヶ内 本村 本村 古宿 古宿 赤岩 赤岩 中津川 中津川

江戸時代より、各部落で行われてきた旧暦七月十四日前後の お盆の行事で「せがけ」と呼ばれ 寺や茶堂、当番の家、川原などで行われています。

七メートルほどの竿を立て、竿の先から四方へ五色の幟を引いて、その下に青い小竹を編んだ九十七センチメートル×五十七センチメートルほどの、施餓鬼棚を設けます。

青い芭蕉の葉をして、お酒、お茶、ご飯、団子、汁、そうめん、キビ、田芋、柿、栗、野菜、果物などを供え、その下で鉦、太鼓を打ち念佛をみんなでとなえます。

日時・場所・作法は部落によって違いはありますが 阿弥陀さまや仏さまの名前に節をつけて唱和する引声念佛の基本にかわりはありません。

音頭が、オーミドー ナーム オーミドーと唱え つづいて

脇音頭が エーナーム オーミドーと唱え 同時に一同が唱和、鉦と太鼓が入り

これを「一とには」といいます。

二十一には 御大師様

五十三には 大せがけ様

三十五には 皆念佛様

三には 日天月天様

三には 氏神様

三には 氏仏様

三には 水神様山ノ神様

三には たいこかね様

三には 旗主様

三には 地神荒神様

三には 山みさき川みさき様

計百三十三にはを唱え、新仏となつた初盆の靈に対しては その冥福を祈つて

「七には」を唱和しました。

下津井部落には、貞享年間以降の施餓鬼念佛帖が保存されてています。

別に

資料 町内（県選定）重要遺跡一覧表

市町村No.	名 称	所 在 地	種 別	現 況	時 代
480001.	清水川城跡	下津井字清水川	城跡	山林	中世
2.	山の神城跡	タ ハ山の神	タ	タ	タ
3.	中山城跡	タ ハフロノ谷	タ	タ	タ
4.	江師遺跡	江師字モリタ他	散布地	畠	縄文・中世
5.	上山城跡	田野タ字城山	城跡	山林	中世
6.	遙越城跡	タ ハウヤガタ	タ	タ	タ
7.	森駄場遺跡	タ ハ森駄場	散布地	学校・畠	縄文
8.	和田林城跡	タ ハ椎山	城跡	山林	中世
9.	北ノ川城跡	北ノ川字コロジ	タ	山林・畠	タ
10.	木屋ヶ内遺跡	木屋ヶ内字南社谷	散布地	墓地・畠	タ
11.	中津川遺跡	中津川字内田他	タ	水田・畠	縄文
12.	八足遺跡	大奈路字松ノ駄場	散布地	畠	タ
13.	大久保遺跡	江師タイバ・大久保	タ	水田・畠	中世
14.	護祥寺跡	田野タ五松寺中	社寺跡	墓地・畠	中世・近世
15.	下岡遺跡	下岡タ沖田他	散布地	水田・畠	縄文・中世
16.	上岡遺跡	上岡タ横野他	タ	水田・国道	縄文
17.	大奈路駄場遺跡	大奈路字上ダバ	タ	畠	タ

編集後記

小学上級生、中学生にも理解できるような町の指定文化財を紹介するパンフレットをつくろうと言うことで出発しましたが、おのれの持つ専門用語や古い言葉をわかりやすくするために苦労しました。何分未熟な私達の為にその目的を十分には達していませんのではとおもいます。御海容ください。

もし今後、改定するような機会がありましたらその時にはと思っています。

尚、本町には、県指定の遺跡や城跡が沢山ありますが、今回は紙数の関係で別表にどめました。きかいたいがあればこれらについても紹介してゆきたいとおもっています。